
幻の語りー死

知秋一葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幻の語りー死

【Nコード】

N3693C

【作者名】

知秋一葉

【あらすじ】

三人が倒れた。媚姫、師父、魔尊・・・

その時・・・

「こんな可愛い姫と遊ばない?!」

媚姫は風一郎に再び聲をかけた。
挑発の言葉だ。

その上、誘惑の秋波も送った。

断れない誘いだった。

しかし、

相手は風一郎だった。

「馬鹿な真似はよせ」

と、風一郎に無視された。

「冷たい男。ね、この薔薇は綺麗でしょう?!」

風一郎の背に呼びかけていた。

「挙げるよ」

風一郎に投げた。

目を奪うほど美しい花だ。

九百九十九枚の瓣の薔薇だ。

「貴様!汚い奴め!」

師父の罵声がはつきり聞こえた。

「急がなかないと・・・」

と、風一郎が思う瞬間、

あの薔薇、

あの薔薇の九百九十九枚の瓣は、
九百九十九本の箭と化した。

毒つけの箭だ。

一本当たったら即死は間違いない。
箭は風一郎の背を襲っていく。

後ろを見ていない彼は当然気が付いてない。
媚姫は笑った。

今回は勝利者の笑みだ。
箭の先はもう背中の中の前だ。
突然、怪事は起こった。

風一郎の衣は膨張してきた。
まるで風船みたい。

媚姫の笑顔は強張った。

「まさか！護体& amp;#32609；気！！」
彼女は叫んだ。

驚いたことは、
それだけではない、

箭は風一郎の衣に触れると、
倍の速度で反射された。

流星のように、
媚姫に射返してきた。

彼女は驚異の目をして倒れた。

「いじわるなやつめ！自業自得」
と、風一郎はいいながら、

光明頂に登ってきた。

時間に間に合ったが、

光明頂の一戦で、

天下の衆生のため、

迷いの風一郎を醒ますために、

師父は命を捨てた。

師父の死で、

風一郎は覚めた。

空に高く飛んで変身したのだ。

明王になった。

「明王一斬」と叫んで、

全力で一撃した。
力が最も弱い魔尊は抵抗できなかった・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3693c/>

幻の語りー死

2010年10月16日00時46分発行